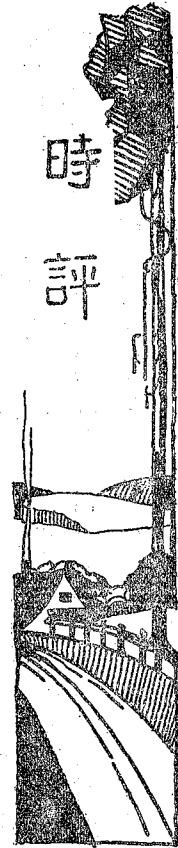


時評



路政時評

丹波浪人

土木會議は近く創設されむとする、之を横觀するものは、時局匡救事業なき後に處する苦肉手段だ、と、言ふであらうが、何も複雑な世の中を横視する必要はない、衆智を集めて百年の土木政策を練る會議と正視すれば可いのだ、假令夫れが十年度以降の新土木事業の起工を招來しても、夫れに依つて國民の利益を齎せば十分だ。

路政時評

土木會議の創設に胚胎して交通會議の設置が議論され、近く之も亦創設さるゝとやら傳へらる、産業の合理化の爲に民間事業の統制が主張さるゝとき、交通機關の施設やら之に對する監督行政が統制さるべきは當然事であつて、敢て咎むべきではないが、土木會議と鐵道會議の存在を前提としての交通會議は、蓋し無用事と言はねばならぬ。吾人が積年主張した交通會議は左様

なものではなかつた、萬般の交通行政を統一するが爲に、交通省を新設することが政治上行政上困難であるならば各省各局課の管理する交通行政を指導する爲に内閣に交通會議を設置して、交通行政の統制を圖れと言ふにあつた、然るに折角豫算まで成立した土木會議を暗から暗に葬りたくない、否な之を葬るときは政府が議會に要求した事業を自ら破棄する非難を招來する、鐵道會議を廢止すれば三土鐵相の進達問題までも起る懸念がある、是等のことに捉はれておれば、荒木陸相の提唱した交通會議の創設に賛成した閣議の決定に反すると言つた調子で、双方の顔を立つるが爲に設けた交通會議、此處にも矢張り政黨に基礎せざる内閣の

惱が表はれてゐる、何を審議するだるうとは今より懸念されてゐるが、道路港灣乃至は鐵道に關する限り、屋上屋を架する會議と評して可い、誰か有用のものと言ひ得るぞや、吾人は合理的に計畫された土木會議が一日も早く創設され、此會議が寧ろ交通會議に於て審議の餘地を與へざる迄に進行して、土木百年の計を樹立することが賢明の策であることを主張したい。

九年度豫算の編制期が來た、高橋藏相は慣例を破つて新事業に關しては閣議に於て其の採否を決定し、其の方針に則つて各省が豫算を編制すること、所謂各省豫算の分捕主義を改むと、

主張したが三土鐵相の反對に遭遇して此意見も不成立、矢張り各省互に鈔い知恵を絞つて爭奪に熱中するだらう、事のこゝに至るのは財務當局が常に財源を秘して明瞭にせざることに胚胎する、寧ろ新事業の採否を決定するよりは財源と金額の總てを公表して閣議に提出することが捷徑であらう。

時局匡救土木事業は七年度以降三箇年間執行して、所謂時局を匡救すと聲明した筈、故に政府に聲明履行の誠意がある以上は、當然九年度豫算の編制に方つて之を計畫すべきは政治の責任上當然である、果たして之を計畫するか今のところ疑問に屬する、併しながら萬一にも之を計畫せざるときは、漸く小康を得むとする農村は再び元の窮

狀を呈して計り難い事態を發生するであらう、此場合に於て政府が如何なる手段を講じても國民は内閣に信を措かないことゝ爲るであらう、心すべきである。

農林省の執行した農業土木と、内務省の執行した一般土木と、地方の救済に如何程の効果を齎したかは、七年度に於ける事實が有力に之を物語つてゐる筈、個人的事業を獎勵して生産額の増加を計り、若は生産額を制限して物價を維持するのも一方法であるが、いつも主張するやうに政府の資金は後世人の負擔すべき公債に依つて支辨して居ることに思を致すと同時に、一は個人の爲に一に公衆の爲に起業すること、其の間事業の取捨選擇を誤

つてはならぬ、町村事業として執行せしめた道路改良の如きは起工當初各種の批評を受けたが、他の事業に比して如何なる効果を擧げたるか、を評議するとき、九年度は本年度以上に支出するを要すべきは明かであつて、之を減少することは、又農村を輕視するの非難を受けるであらう。併しながら九年度を以て終了すべき事業の性質上、後年度に亘る事業を新に執行する如きは固より許さないのは當然である。

各府縣に土木部を増設する問題は、随分古くから主張されて來たのであるが、未だ其の確定を見るに至らないのは頗る遺憾、固より土木部を設置すべ

き府縣の選擇に方つては政治上相當の議論が存するであらうが、部制を採るべき府縣は既に評價されてゐる筈である、夫れにも拘はらず尙其の決定を見ない理由は奈邊にあるか、夫れとも部長の適材を得るに難いのであるか容易に判斷することは困難であらうが、聞くところに依れば、部制の擴張を計ると同時に、老級者を淘汰せむとする意向を持つてゐるらしい、這般内務省に招集された土木主任官會議は、八年度豫算の執行方針を指示するにあつたのであるが、其の一面に於て唐澤土木局長が首實驗をする機會でもあつた、從つて主任官の老弱の程度乃至能力は判定されてゐる筈である。

由來技術官は政治上無風地帯に置か

れ、内閣が更迭しても轉職退官等の浮目を見なかつた、技術に關する事務官として當然であつて、之を政務官と同一に取扱つて故なく地方長官を餞首したことは不合理であつた、爲に文官の身分が保證せらるゝの制度を見るに至つたのであるが、之が爲に從來無風地帯に居て事實上に於て身分を保證された技術官が法上の保證を得るに至つた、技術官界は其の動搖頗る少くなつた、從つて至るところに老級者を見るのであるが、之を轉職退官せしむるには容易でない、從つて部制の擴張も遷延するに至るのである、我が土木行政進展の爲に部制々度の擴張を希望するにあらば、老級者は此際自ら職を辭して後進の途を開くことが我が土木行政の刷

新を計ることゝ爲るであらう。

道路と鐵道との平面交叉の問題は、

道路を使用する自動車の増加に伴つて道路交通と鐵道交通との競争關係を惹起するに至つた、獨り交通危險上の問題ではなく相互の交通經濟上の問題と爲るに至つた、従つて鐵道の見地からは勿論のこと、道路の見地に於ても之を除却する必要緊切と爲つたことは今更言を俟たない、然るにも之が改良遲々として依然舊時の盡に放任されてゐるのは何に原因するのであるか、其の原因は多々あるが、道路と鐵道との改良が其の時機を異にすることが最大の原因である、此ことは這般土木主

任官會議でも大に論議され、遂に主任官は此意見を三土鐵相に提出して、せめて國有鐵道との平面交叉だけでも除き去せむことを建議したのである。

内務省に於ては此意見のある所に聞き鐵道省に對して踏切改良に關する協議會を設置すべきことを提唱し、鐵道省も之に賛成して近く協議會を設置すと傳へられてゐる、此會議に於ては主として國有鐵道と國道との平面交叉の除去に就いて一定の方針を樹立し、鐵道の負擔に於て改良するものと、國道の負擔に於て改良するものとの區別し、兩者は財政の許す範圍に於て豫算を編制して遂次平面交叉を改良せむとするのであつて、内務省の此計畫は唐

澤土木局長の新施政として、世上多大に

歡迎されてゐるが、重要府縣道と國有鐵道との平面交叉の廢止に就ても地方廳が地方鐵道當局と協議して計畫したならば、國道の改良と相並で地方交通上効果を擧ぐることに爲るであらう。

平面交叉の問題と相並で路政上の問題であつたのは、道路の改良計畫と都市計畫道路との關係が一致しなかつたことであるが、路政當局は此不合理を除くが爲に矢張り協議會を設置すると傳へられ、交通行政の統一に先つて自ら統制せむとするのは路政の一大進展と言ふべきであらう。

X
—
X

X
—
X